

平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について

1 調査の概要

(1) 調査日時 平成29年7月6日(木)

(2) 調査の対象学年(悉皆調査)

○小学校第5学年	1,285校	91,434名
○中学校第2学年	625校	72,601名

(3) 調査内容

① 教科に関する調査〔教科の内容・読み解く力〕
〔国語、社会、算数・数学、理科、英語〕

② 児童・生徒質問紙調査
学習や生活に関する意識や生活習慣など

③ 学校質問紙調査
指導方法に対する取組や学習環境、生活指導など

(4) 各教科の平均正答率と、習得目標値の問題数及び平均正答率

●習得目標値の問題：教科書の例題レベルの問題

小学校	平均正答率	全問題数	習得目標値の問題	
			問題数	平均正答率
国語	67.8%	20問	7問	70.3%
社会	71.1%	23問	9問	69.3%
算数	61.4%	32問	14問	69.5%
理科	71.6%	20問	6問	62.8%

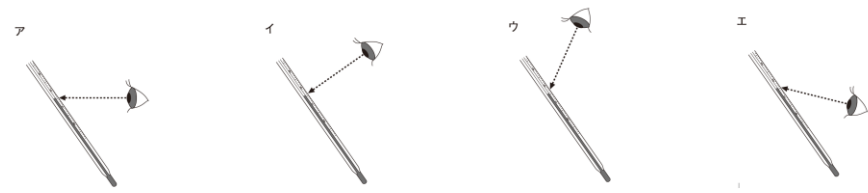
中学校	平均正答率	全問題数	習得目標値の問題	
			問題数	平均正答率
国語	72.7%	27問	10問	76.2%
社会	56.5%	26問	7問	67.4%
数学	53.3%	29問	10問	63.1%
理科	56.5%	27問	7問	64.2%
英語	62.9%	26問	6問	70.4%

2 結果の概要

(1) 学力の定着が図られている問題例

◇小学校理科

温度計の目もりの読み方として最もふさわしいものを、次のアからエまでの中から1つ選び、記号で答えましょう。



正答 イ
正答率 71.0%

参考：平成23年度
正答率 42.3%

◇中学校英語(趣旨理解に関する問題)

マサルが書いた手紙を読んで、マサルが一番伝えなかったこととして最も適切なものを答えなさい。【平成29年度】

Dear Jim,
Hello. How are you? I am fine.
I got back from Australia yesterday evening. It's very hot in Tokyo. I had a good time with you in Australia. We played soccer or tennis with your friends Mike and Tom every day. You are really good at soccer, but I can't play it very well. Mike and Tom are great tennis players. I was surprised.
My father got a computer for my brother and me last week. Now I can send e-mails to you. Please send an e-mail to me. I took a lot of pictures in Australia. I want to send some of them to you. I want to write to you by e-mail about my life in Tokyo, and I want to know about your life in Australia, too.

Sincerely,
Masaru

ア オーストラリアの人たちと野球をしたかったこと
イ ジムと写真を撮りたかったこと
ウ 父にコンピュータを買ってもらいたいこと

正答 エ これからも電子メールで交流をしていきたいこと
正答率 83.9%

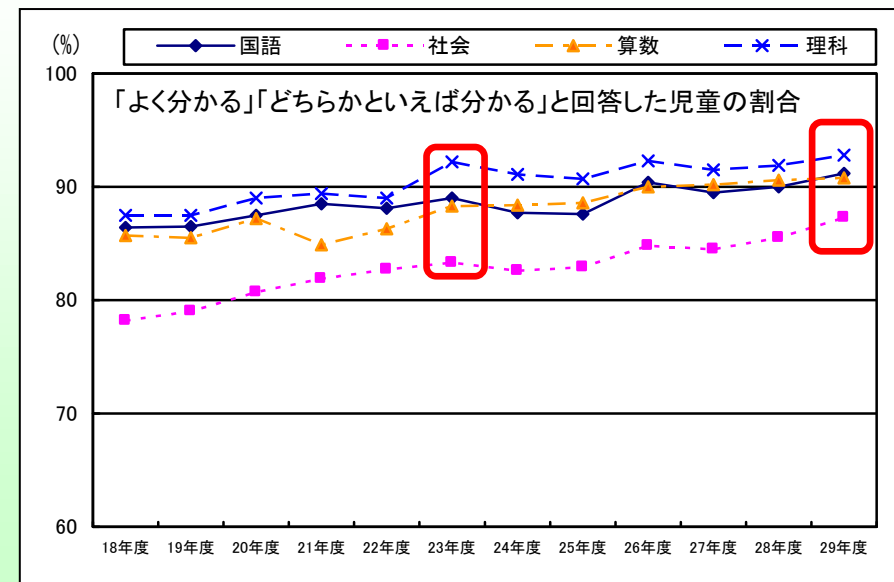
参考：平成25年度
正答率 62.1%

○経年で見ている問題については、全教科で改善が図られている。

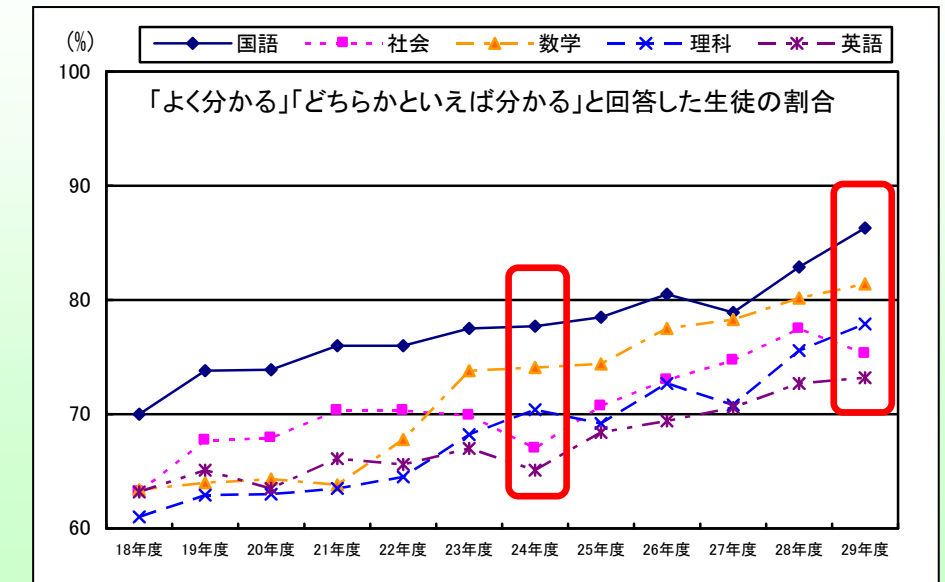
(2) 授業内容の理解度と平均正答率との関係 —児童・生徒質問紙調査より—

◇「授業の内容はどのくらい分かりますか。」

【小学校】



【中学校】



◇「授業の内容が分かる要因」(平成29年度各教科上位2項目)

	質問内容	平成23年度	平成29年度
国語	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	-	47.9
	出された宿題をきちんとやっているから	40.2	47.8
社会	社会の授業での先生の教え方がていねいだから	36.7	44.6
	世の中のできごとを知ることが好きだから	40.5	43.4
算数	コースに分かれた少人数の学習があるから	53.5	68.9
	算数の問題にはいろいろな解き方があるから	58.5	59.7
理科	観察したり、実験したりする授業が多いから	81.5	74.8
	自分で予想し、それを確かめる授業が多いから	63.4	64.5

※平成23年度は小学校において、平成24年度は中学校において、現行学習指導要領が全面実施された。

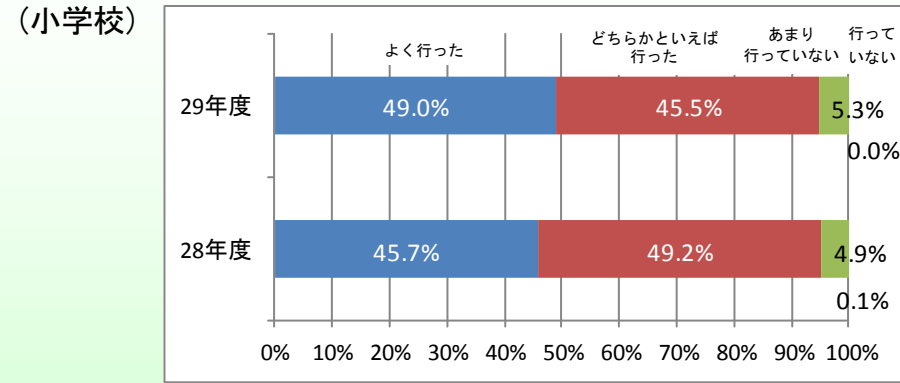
◇「授業の内容が分かる要因」(平成29年度各教科上位2項目)

	質問内容	平成24年度	平成29年度
国語	国語の先生の教え方がていねいだから	43.9	50.7
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	20.9	40.6
社会	社会の先生の教え方がていねいだから	36.4	44.9
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	12.9	27.8
数学	理解の程度などによるコース別の授業があるから	21.4	46.5
	数学の先生の教え方がていねいだから	38.3	41.2
理科	観察したり、実験したりする授業が多いから	46.4	49.6
	理科の先生の教え方がていねいだから	36.2	44.3
英語	英語の先生の教え方がていねいだから	29.9	36.7
	塾や家庭で教えてもらっているから	28.8	34.1

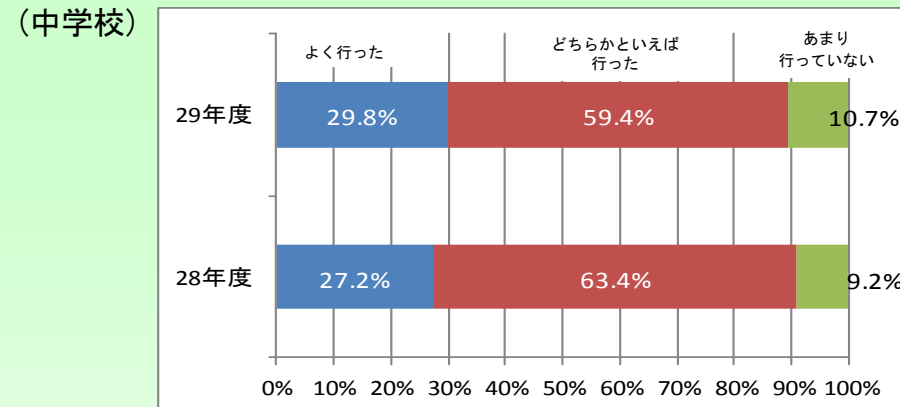
- 授業の内容が「分かる」と回答した児童・生徒の割合は各教科とも増加傾向にある。
- 授業の内容が分かる要因として、学習方法等に関する項目の割合が増加している。
- 児童・生徒が「分かる」と回答している割合と、習得目標値の問題の平均正答率との差異について分析を深める必要がある。

(3) 振り返る活動に関する質問の調査結果と平均正答率との関連—学校質問紙調査より—

◇「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。」



振り返る活動と平均正答率の関係	平均正答率 (%)			
	国語	社会	算数	理科
よく行った	64.1	72.4	61.4	72.7
どちらかといえば行った	63.0	71.5	60.4	72.0
あまり行っていない	60.7	70.9	59.7	72.0

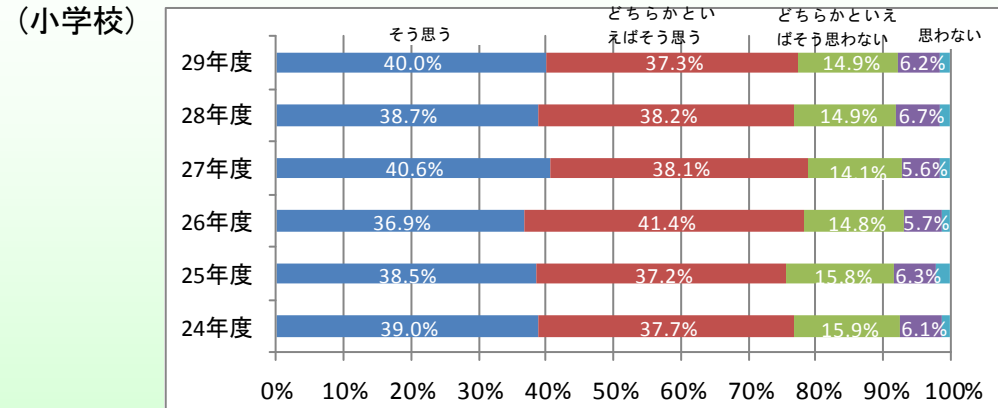


振り返る活動と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	数学	理科	英語
よく行った	73.5	56.8	55.1	56.6	66.4
どちらかといえば行った	72.9	56.1	52.7	56.8	64.2
あまり行っていない	72.2	55.3	51.5	56.2	65.3

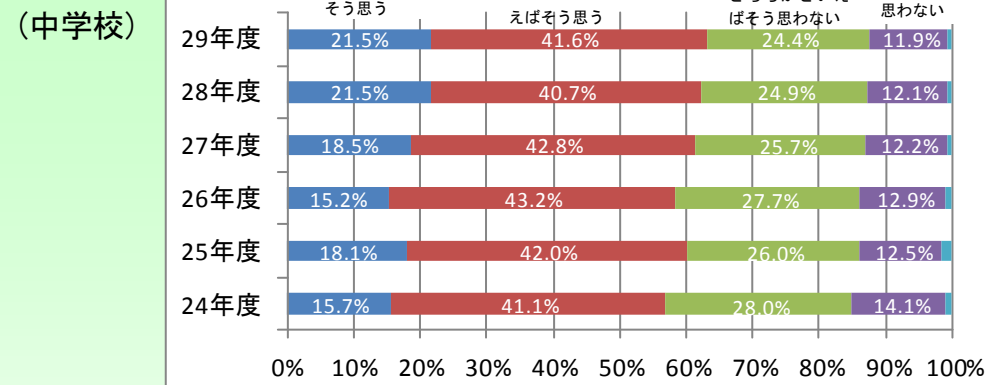
○多くの学校が、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたと回答しており、より肯定的な回答をした学校ほど正答率が高い傾向にある。

(4) 自尊感情に関する質問の調査結果と平均正答率との関連—児童・生徒質問紙調査より—

◇「自分のことを大切な存在だと感じていますか。」



自尊感情と平均正答率との関係	平均正答率 (%)			
	国語	社会	算数	理科
そう思う	63.9	73.2	62.0	73.0
どちらかといえばそう思う	64.1	72.7	61.6	73.0
どちらかといえばそう思わない	62.2	70.0	58.9	71.4
思わない	60.8	66.0	56.6	68.9

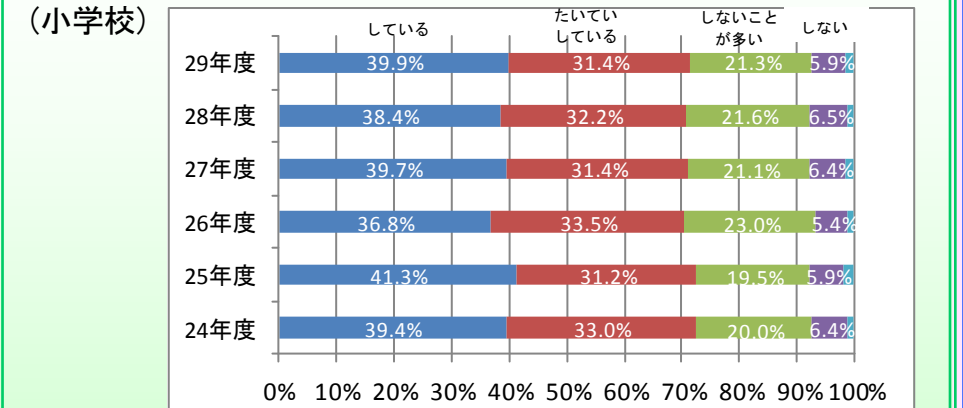


自尊感情と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	数学	理科	英語
そう思う	74.2	57.9	55.9	58.2	67.6
どちらかといえばそう思う	73.7	57.2	54.7	57.4	66.6
どちらかといえばそう思わない	72.1	55.1	51.6	55.6	63.0
思わない	71.0	52.8	48.5	54.1	59.4

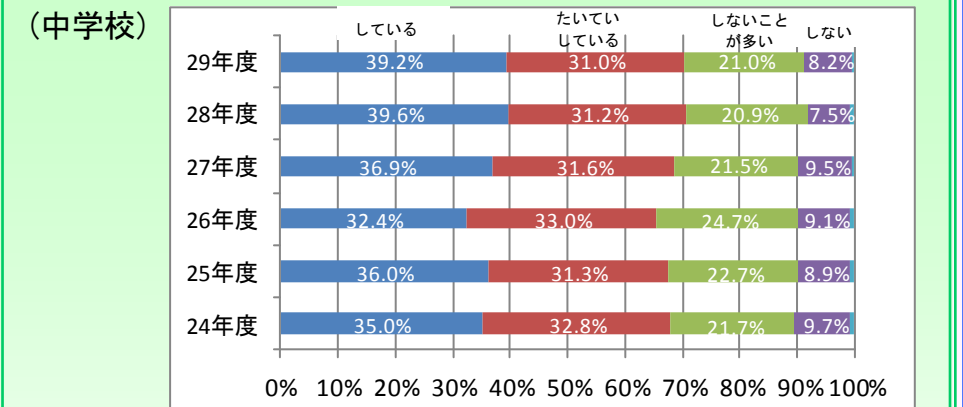
○中学校において、自尊感情について肯定的な回答をした生徒は増加傾向にある。
○より肯定的な回答をした児童・生徒ほど正答率が高い。

(5) 家の人との会話に関する質問の調査結果と平均正答率との関連—児童・生徒質問紙調査より—

◇「家の人と、学校や社会の出来事について話をしていますか。」



家族と話をしていることと平均正答率との関係	平均正答率 (%)			
	国語	社会	算数	理科
している	67.3	76.4	64.6	75.5
たいていしている	62.8	71.5	60.6	71.8
しないことが多い	60.0	68.3	57.7	70.1
しない	54.2	59.6	50.5	63.6



家族と話をしていることと平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	数学	理科	英語
している	75.8	58.9	56.5	59.3	69.4
たいていしている	73.6	57.1	54.1	57.2	65.7
しないことが多い	70.1	53.1	50.0	53.8	60.2
しない	66.2	49.0	45.0	50.1	54.5

○家の人との会話について、より肯定的な回答をした児童・生徒ほど正答率が高い。

3 取組の方向性

- 結果報告会で課題と改善の方向を示すとともに、学校へ直接訪問して授業改善を支援する
- 1時間の授業の中で児童・生徒が自身の思考過程を振り返る活動を促進し、思考力・判断力・表現力の更なる充実を図る
- グループ活動において自他のよさを認め合う学習活動を促進し、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
- 「東京ベーシック・ドリルソフト」等の活用を促進し、知識・技能の確実な定着を図る
- 保護者向け「リーフレット」やメールマガジン等による情報発信を推進し、学校と家庭との連携の充実を図る